

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2018年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます



教室だより 10月

体育の日

10月8日(月)は『体育の日』です。

『体育の日』は、1964年に開催されたオリンピック東京大会の輝かしい成果と感動を記念して「国民がスポーツに親しみ、健康な心身を培う日」として国民の祝日に制定されました。

1966年、開会式のあった10月10日が『体育の日』として祝日に定められましたが、2000年からは「ハッピーマンデー法案」の制定により、10月の第2月曜日が体育の日とされています。

10月10日が東京オリンピックの開会式に選ばれた理由は、戦後復興を果たした日本の姿を世界にアピールするには、絶対に晴れる日がよいとされ、気象庁が膨大なデータの中から一番高い確率で晴れる日を調べたところ、10月15日が割り出され、二番目に晴れる日が10月10日という調査結果になりました。

その時、東京オリンピックが開催される1964年の10月15日は平日の木曜日だったため、より多くの人々の注目を集めるために、日本オリンピック委員会は土曜日の10月10日を東京オリンピックの開会式の日と決定したということです。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる) 先生の言葉より

“読解力に的をしぼり自学自習で進むから、確実に英語力が身につく”

国際化社会で活躍すべきこれからの日本人は、外交、経済、芸術などあらゆる分野において必要なコミュニケーション能力を、さらに高めることが望まれます。そのためにも、英字新聞ぐらいいは無理なく読める読解力が必須の条件となります。単なる「会話」ではなく、高度な意思疎通をはかるためには、高度な読解力が必要なのです。

公文式英語はやさしい段階から始めるので、「よし、もっとやろう」という意欲が生まれます。しかも、聞いて読んで書き、書いてからまた読むという学習方法です。自分のペースで先へ進むので、一步一步、確実な学力を身につけていきます。

あれもこれもと欲張って多すぎる要素を勉強しながら進むのではなく、「読解力の向上」に目的をしぼっているのです。楽な状態をいつまでも維持しながら、進むことができます。自分で鉛筆をにぎり、マイペースで自習しながら進んでいく公文式だからこそ、英語の力を確実に身につけることができます。

2018年 10月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8 体育の日	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

本市場教室日□

横割教室日△

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

10月分の会費引き落としは9月28日(金)です。よろしくお願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願います。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

様

*ゆき子の一言コラム

勉強してもそんなに成績はあがらないのか。

勉強することはどういうことなのでしょう。机の前に座って分からないところの答えを写すことが勉強だと思っていないですか。「考える」ということ忘れてはいけません。勉強するということは、できているところをチェックして、できていないところを考えて理解し定着させることです。分からなかったところを、赤ペンで答えを写したとしても勉強したことにはなりません。まずは分からないところを考えて、理解しようと努力してみることが一番大事です。小学生高学年になると、勉強することもむずかしくなってきたり、理解できないところが多くなります。これは勉強することが大変で、嫌になることにつながります。勉強に対して積極性がなくなり、勉強しているというよりも勉強させられているという意識が強くなります。教えてもらうことを待つ状態になってしまいます。つまり勉強に対して受け身の状態になってしまうわけです。そのまま中学生になると、中学の勉強がむずかしくなってしまう、中学の授業について行けなくなってきました。よく学習中、答えがわからなかったら「わかりませ〜ん」と教えてもらうことを待つ状態になってしまう子がいます。この子は将来勉強に対して受け身の状態になりかねません。まず「問題をよく読む」、何を求めているのか。自分で考えるということを習慣化しなければ、勉強がますます難しくなってしまいます。

小学生の時に勉強に受け身にならないこと。

小学生高学年になると、勉強することもむずかしくなってきたり、理解できないところが多くなります。これは勉強することが大変で嫌になることにつながり、勉強に対して積極性がなくなってしまいがちです。勉強しているというよりも勉強させられているという意識が強くなり、勉強に対して受け身の状態になってしまうわけです。そのまま中学生になると、中学の勉強が益々むずかしくなってしまいます。このようにならないためには、自分で考えるということを習慣化しなければなりません。

分からないと思ったとき考えることをするか。

問題を見て分からないところは飛ばして、後で丸つけをして、答えを写して分かった気になる。というのが通常の勉強の仕方。それではいつまでたっても、分からないところは分からないままということになります。でも答えを見ても教えてもらっても、分からないから仕方がないと思うのも分かります。そこで、考えることも段階的にできるようにしていく必要があります。個人の能力に合わせて、考えるきっかけを作っていかなければなりません。

どのようにすれば考えるようになるのか。

考えるということがまだできていない場合には、はじめは、ほとんど解き方を教えて勉強するテンポを作るようにしています。その後、同様問題をくり返して行うようにして、同レベルの問題に慣れるようにします。同様問題をくり返して行いますので、教えることが少なくなり、自分で考えることが増えていきます。このようにして、少しずつ自分で考えて、問題を解いていくことを習慣化することがだいじです。自分の力で解くという意識が自信に変わります。でも残念なことに、その意味が解らず、ただ宿題をやって持ってくればいいと、前やったプリントを丸写しする子もいますが、採点側から見ればすぐ丸写したと分かります。小学生は学習している時はできていても、時間が経過するとできていたことも忘れてしまう傾向があります。これは重要事項を定着させるための反復学習不足によります。ただ、反復学習の時間を多くとると、なかなか先へ進む進度が遅くなり難しい問題ですが、宿題がこれを補ってくれています。宿題の枚数多くて子どもが大変とか、宿題プリントの重要さを十分認識していない親御さんも多いのも事実です。宿題の主目的は、公文教室でやった、覚えた問題を再度自宅で、自力で問題が解けるか、それと自主的に復習ができるかを自分の力で定着（楽に出来るように）させるためです。勉強が「分からない」から「やらない」ではなく「分からない」から「やる」という気持ちを持つようになることが大切です。宿題プリントもご家庭でしっかりやっているのか、じぶんでちゃんと解いているのか確認してほしいですね。

できていたと思っていたのに、実力テストではできていなかった

小学生は学習している時はできていても、時間が経過するとできていたことも忘れてしまう傾向があります。これは重要事項を定着させるための、反復学習不足によります。ただ、反復学習の時間を多くとることができないのも現状です。そこで、重要な基本事項だけはしっかり理解しておくことが必要となります。学年ごとに次の学年のためには、確実に理解しておかなければならない重要単元があります。最低限この重要単元は理解して定着させておかなければなりません。小学1年生「たし算・ひき算」小学2年生「九九」小学3年生「かけ算・割り算」小学4年生「小数のたし算・ひき算」小学5年生「小数のかけ算・わり算」小学5年生「分数の計算」が各学年の重要単元です。これらの単元は、学習した時だけでなく後にも必要となってくるので、しっかりと定着させておかなければなりません。また、理解定着できていないとその単元だけではなく、算数を苦手科目にしてしまうことにもなります。